

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471000487	事業の開始年月日	平成13年8月13日	
		指定年月日	平成13年8月13日	
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所			
事業所名	スカイホーム 湘南			
所在地	( 245-0051 )			
	神奈川県横浜市戸塚区名瀬町36-4 KMプラザ			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成21年12月14日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月30日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://center.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①理念に基づき、入居者様お一人お一人の人格を尊重する介護を心がけ、朝礼等で職員全員に周知徹底を図っている。
- ②ビルの4・5階部分に位置する為、近隣との交流が難しいが、散歩の折、近隣の方々とふれあったり、運営推進委員会を通じて、地域の理解を得るよう努めている。
- ③家庭に近い生活が出来るよう支援し、食事は手作りとし、旬の食材を献立に取り入れ、誕生会などのイベントメニューにも力を入れている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成22年1月12日	評価機関 評価決定日	平成22年3月3日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- ◆ 日常の利用者と職員の関わり方を事例に、理念と結び付けて説明することで、理念の周知徹底を図り、利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい生活の支援に努めている。
- ◆ 食事をイベントとして考え、誕生日の献立は本人の希望に合わせて用意している。また、利用者と職員と一緒に、お好み焼きや餃子作りをしたり、お花見におにぎりを作って持参するなどの工夫をしている。
- ◆ 夏祭りやクリスマス会、各利用者の誕生日会、バス旅行など、すべての行事に家族を招待し、利用者と家族がともに楽しんでもらうことにより、利用者の安心感につながるよう工夫している。
- ◆ 散歩の折に、近隣の空き缶拾いを行ったり、町内会の清掃や盆踊りに参加している。また、地域の中学生の体験実習の受け入れやボランティアとの交流、事業所の夏祭りやクリスマス会に、ボランティアや町内会顧問・会長、民生委員等を招待するなど、地域との交流を積極的に図っている。事業所の広報を町内会の回覧板に入れてもらっている。
- ◆ 食事作りや買い物時の荷物持ちなど、利用者一人ひとりができることを担ってもらい、張り合いのある日々を過ごせるようにしている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スカイホーム 湘南
ユニット名	あおい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭に近い介護・地域の皆様と共に支援することを主たる理念とし、玄関・食堂に掲示し、新人研修や朝礼などで理念の確認を行っている。	理念を、新人研修で伝えるとともに、朝礼の際に職員に事例を通し確認をしている。日々のケアの中で常に理念を念頭に置き、その人らしい生活の支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内清掃・地域の祭り等に参加すると共に、地域の方々にも事業所の行事への参加を呼びかけている。コーラス・バレエ教室の訪問公演も受けている。	町内会の清掃や盆踊りに参加したり、事業所の広報を町内会の回覧板に入れてもらっている。事業所の夏祭りやクリスマス会に、家族とともに地域の方々を招待している。散歩の折には、近隣の空き缶拾いを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校と体験学習の受け入れや文化祭への参加を通じて交流し、認知症への理解を深めてもらっている。運営推進会議を通じて事業所の日々の生活を理解してもらうようにしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に開催し、行事・イベント・アクティビティ・職員の研修参加状況を報告し、意見やアドバイスを頂き、ボランティア紹介をして頂いたりし、サービスの質と量を高める努力をしている。	利用者、家族、町内会顧問・会長、民生委員、ボランティア、地域包括支援センター職員等が参加し、3ヶ月ごとに開催している。囲碁ボランティアの紹介、七夕用の笹の生えている場所を教えてもらうなどの助言等を受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する連絡会に参加し市担当者と連携を図り、困難なケースや生活保護受給措置の入居者様について情報交換を行っている。	生活保護受給の利用者の暮らしについて、担当者と常に連携を図り、訪問も受けている。区の会議や研修に積極的に参加している。また、区が開催するボランティア育成講座の研修受け入れ施設として登録をし、市から認知症サポーター講座開催の委託や講師依頼がある。	

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、入居者一人ひとりへの理解を深めて、その行動を把握する事によって、危険行為に対応している。日中は玄関に鍵をかけないが、万一に備えてセンサーをつけている。	平成21年10月にグループホーム連絡協議会主催研修「身体拘束について」を受講し、事例演習シートを使い職員に対して虐待の意識調査を行い、言葉かけを一層注意するようになった。職員間で声かけをして利用者の様子や所在を把握し、日中は玄関の施錠をしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し朝礼にて研修報告をし、ケース・スタディを行う事で「虐待防止法」を理解し虐待の見過ごし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し朝礼にて報告し、職員に法制度や高齢者サービスを学ぶ必要性を話している。これらの制度を入居者様が必要とするか見極め適切な手続きを取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、又その家族に対し、運営規程の概要や職員の体制、その他のサービスに対する重要事項を記した文書を交付して説明を行い、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様は日常生活の場面で随時傾聴し、家族は来所時やケアプラン返送時に要望欄で意見・要望を頂き、職員に周知徹底し、サービスに反映させている。3ヶ月毎に家族会で意見聴取に努めている。	3ヶ月ごとに開催する家族会や、介護計画を送付する際に「ご要望用紙」を同封し、家族の意見を聞いている。散歩や居室の掃除などの要望があり、朝礼時に対応を話し合い改善している。	

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やカフェルスで互いの意見を交換し、問題や疑問を生じた場合は解決策を考じ、日々の業務の合間にも意見交換が出来る体制を整えている。	管理者は職員が気軽に意見を言うことができるよう、コミュニケーションを図ることを心がけている。毎朝30分の朝礼で意見交換をし、管理者から朝礼等で問題提起を行い、皆で解決策を出し合い改善するよう努めている。職員の提案で「申し送りノート」の充実などが決まっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員の処遇改善の計画を立て、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、研修に参加した職員は、朝礼にて研修内容報告し、共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の研修等に参加する。又、交換研修を行い、他施設で学んだ知識や技術を職員間で共有し、生かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入居を行い、本人と家族の納得を得るよう心掛け、要望・不安・生活歴を理解し、必要とするサービスを把握するよう努めている。入居者歓迎会を開催している。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問合せ時点で、なるべく本人・家族に見学して頂くようにし、体験入居も受け入れ要望・不安等を聴取し、納得を得るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、面接で本人・家族の要望を把握し、初期には一日の生活状態を観察し、必要な支援を見つけ、々の統一化を図り、共有するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりが出来る事を把握し、食事作り・清掃・植物の世話などを共に行い、本人の力を発揮できる場面作りをし、支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・誕生会など行事に参加して頂き、又、本人の要望を代弁するなどし、家族と連絡を取り合い、協力し合いながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の写真など好みの物を居室に飾ったりし、親類・友人の訪問時には、居室や居間で話をして頂いている。家族や遠方の親類へ、いつでも電話で話をして頂く。	知人や親戚等へ手紙を出したり、電話で話す機会を作り、馴染みの人との関係が継続できるよう支援をしている。	

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、ご一緒している時は、お茶を差し上げるなどして話が弾むようにする。興味の対象が似ている方には、お好きな事をお勧めし、一緒に楽しめるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、家族より手紙を頂いたり、時には転所先に足を運び様子を伺ったり、情報提供を求められた際の手紙等も整備している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人記録には本人の言動をきちんと記入し、日々の生活の中で意思や要望を知るように努め、変化に気づき職員間で共有し、統一した対応をするように努めている。	入居時のアセスメントのほか、センサー方式の様式を使い、本人の言葉で一日一枚の記録をし、本人の言葉の中から要望を抽出している。家族の希望や意見は、電話や来所時に聞き「家族連絡ノート」に記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面接にて本人及び家族から把握した生活歴などをアセスメントシートに記録し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にセンサー方式D3を活用し、24時間の水分・食事摂取量や言動・職員の関りなどを細かく記録に残している。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望や意見は「家族ノート」に記入し、ケース会議は必要に応じて開催し、事例を職員間で共有すると共に、医師や看護師にもアドバイスを仰ぐ。	日常の暮らしの中で、本人の言葉の中から要望を抽出し、個別記録や家族連絡ノートをもとに、朝礼時に行うカンファレンスで、職員間で話し合い、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活変化シートに、個人別に一日の生活の状態、具体的な様子や発言を記録し、職員間で共有し介護に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望に添えるよう、家族とも相談し、建物内の小規模多機能型事業所と連携を取り、催事参加交流や機械浴入浴等、柔軟な支援ができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し町内清掃・夏祭りに参加し、地域の方々にも事業所の行事(祭・クリスマス会)の参加を呼びかけ相互の交流を図り、囲碁・書道ボランティアの訪問、コーラス公演などの受け入れをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て、24時間居宅療養診療医(月2回往診)を委託し、他に訪問歯科・訪問マッサージ・針灸治療を受けられる体制を取っている。	入居前からの医師にかかっている利用者があり、家族の支援のもと受診を継続している。多くの利用者は、事業所の協力医療機関を主治医とし、24時間相談できる体制である。また、訪問歯科、マッサージなどを希望により受けることができる。	



スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人契約にて24時間医療連携体制を行っており、週1回の巡回訪問・必要時に訪問・24時間電話対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医からの診療情報提供書や、他の情報をただちに送り、入院先と連携する。見舞いに行き、退院後の生活が安心してスムーズに始まるように支える。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化に関する指針」を説明し同意を得た上で、医師・看護師・家族を交えて話し合い、方向性を確認する。	入居時に「重度化に関する指針」を説明し、希望があれば医療機関と家族で話し合い、方向性を確認することとしている。一人の利用者を家族と医師の連携のもと看取った経験がある。現在も、今後の事を家族と職員の合意をとりながら進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生講習(AED)の受講や緊急時対応マニュアルを目に付く所に掲示し、朝礼時などに対応の再確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、火災・地震時の避難誘導方法の再確認を行っている。毎日、ビル内各階施設の夜勤者・入居者数の確認を行っている。	自主防災訓練を年2回実施している。また、夜間を想定した訓練を実施し、非常食をみんなで食べるなどの体験を行っている。消防署から、ベランダに誘導して救援を待つなどの指導を受けている。非常用の食料・水の用意をしている。目下、法人の指導のもと、備品を整備中である。	

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、一人ひとりの人格を尊重した支援を心がけ、人前であからさまに介助をしない、言葉かけやレクリエーションへの参加呼びかけ等、無理強いの無いよう気をつけている。	センター方式を用いて、利用者の嫌なこと、気になることのアセスメントを行い、一人ひとりの人格を尊重して、言葉遣いや誘導は無理強いにならないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物は本人の要望に添うようにし、誕生会の食事メニューは本人の希望する献立を組んでいる。レクリエーション参加は本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活ペースは決まっているが、その都度、要望を伺い柔軟に対応している。起床時間・食事時間は個人の心身の状態に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて衣類を選んだり、購入時本人の希望を取り入れている。男性の髭剃りは、入浴時や自分のペースで行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき・味付け・盛り付け・など各々得意とする方と一緒に作り、後片付け・食器洗いも職員と一緒にしている。同じテーブルに職員も着き会話を楽しみながら食事を頂く。	配膳や下膳など、利用者ができることを行ってもらい、食事は、利用者と職員が談笑をしながら一緒に食べている。食事もイベントとして考え、利用者と一緒に好み焼きや餃子作りをしたり、おにぎりを作ってお花見に持参するなどの工夫をしている。	

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養が作成したものにに基づき利用者の希望や季節感も取り入れ、健康管理に配慮し、食事量・水分摂取量は個人記録表に記録する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを自力や介助にて行い一人ひとりの口腔内の状態を把握している。週2回、義歯洗浄殺菌をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、声かけし、トイレでの自立排泄を支援している。	排泄の支援が必要な利用者には、チェック表を用いてパターンを把握して誘導するなど、自立に向けて支援している。トイレへの誘導も耳元で促すなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し排便状態を把握し、便秘が見られる方には、繊維質の食物・乳製品などを摂取してもらうようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、その日の体調によりシャワー浴や清拭にて対応し、入浴希望があれば入浴日以外でも対応している。	原則週2回以上の入浴を心がけている。体調により翌日の入浴や清拭で対応することもあるが、希望により連日の入浴もできる。また入浴のない日は足浴を行っている。夏場や必要な時はシャワー浴で対応することもある。	

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室清掃・布団干し・リネ交換等、こまめに行い、居室の温度・湿度・換気に配慮している。冬季は次亜塩素酸加湿器を使用し、居室には濡れタオルを下げ湿度管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を各々確認し、身体の状態と薬の目的を理解している。変更があれば、薬剤師・看護師から説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事、やりたい事、得意な事を把握し、縫い物・掃除・洗い物・洗濯物畳みなど、職員と一緒にやり、得意な事を教えて頂いたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くに散歩に行ったり、車で公園や食事に出かけている。年に一回、家族とバス旅行に行く。必要な物があれば、一緒に買い物に行き選んで頂く。	天気の良い時は、散歩に出かけたり、近くの土手でお花見をしている。希望により、買い物に出かけている。気分転換に、2～3人で外食に行くこともある。男性利用者はスーパーに買い物に行く時に、荷物を持つ役割を買って出してくれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員が管理しているが、必要に応じて、いつでも使えるよう支援している。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便箋・ハギを用意し、手紙のやりとりができるようにしている。電話は原則的に自由にかけて頂く。かけられない場合は職員がかける。かかって来た電話は取り次ぐ。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は和室で、ソファ・テレビ・雑誌などを置き、民謡・童謡・クラシックなどのCDを流し、ベンダには四季折々の花々を育て、食卓テーブルにも花を飾って、季節感を感じられるようにしている。	畳の居間にソファやテレビを置き、足元はホットカーペットを敷き、利用者がくつろげる場となっている。廊下の壁には行事の写真や、利用者の習字や塗り絵の作品も飾られている。お正月飾りや、食卓に小花が飾られ、季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でテレビを一緒に観たり、廊下のベンチに座り話をされたり、各々の居室内で雑談をされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台・タンス・仏壇など、居宅から持ち込まれた馴染みの深い物を置き、家族の写真や思い出の品物を飾ったりし、思い出の居室作りをしている。	居室には、タンス、仏壇、テレビ、ラジオ、そろばんや辞書など、思い出のものが持ち込まれている。畳敷きの居室やフローリングの居室など多彩である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の状態によって、ポータブルトイレを自室に入れている。トイレ個室の一つに「女性用」の札を下げて混乱を避けている。自室ドアの横に名札を貼っている。		

事業所名	スカイホーム 湘南
ユニット名	はづき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭に近い介護・地域の皆様と共に支援することを主たる理念とし、玄関・食堂に掲示し、新人研修や朝礼などで理念の確認を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入・町内清掃・夏祭り参加・中学生の体験学習受け入れ・囲碁・書道ボランティアの訪問、ユース・バレエ教室の公演などで交流を積極的に推進している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイトとして、事業所内外において講演会を行い、ホームを訪れて下さるボランティアの方にも理解を深めていただくべく話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に開催し、行事・イベント・アクシント・職員の研修参加状況を報告し、意見やアドバイスを頂き、ボランティア紹介をして頂いたりし、サービスの質と量を高める努力をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主催する連絡会に参加し市担当者と連携を図り、困難なケースや生活保護受給措置の入居者様について情報交換を行っている。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室及び日中は玄関の施錠はせず、入居者様一人ひとりへの理解を深め、声かけ・見守り等の介護力で拘束のないケアを実践している。玄関にはチャムを取り付け危険回避している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し朝礼にて研修報告をし、ケース・スタディを行う事で「虐待防止法」を理解し虐待の見過ごし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し朝礼にて報告し、職員に法制度や高齢者サービスを学ぶ必要性を話している。これらの制度を入居者様が必要とするか見極め適切な手続きを取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時、契約内容及び重要事項を、本人・家族に説明し、解約時は契約書にのっとり適切に行っている。内容の改訂時は内容承諾書を頂き、理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様は日常生活の場面で随時傾聴し、家族は来所時やケアプラン返送時に要望欄で意見・要望を頂き、職員に周知徹底し、サービスに反映させている。3ヶ月毎に家族会で意見聴取に努めている。		



スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やカンファレンスで互いの意見を交換し、問題や疑問を生じた場合は解決策を講じ、日々の業務の合間にも意見交換が出来る体制を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めて個々の努力や実績を把握してモチベーションが低下しないように得意分野を生かしてもらおうよう助言している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、研修に参加した職員は、朝礼にて研修内容報告し、共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域定例会・グループホーム連絡会・交換研修への参加をし、知識や技術を学び職員間で共有し日常業務に生かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入居を行い、本人と家族の納得を得るよう心掛け、要望・不安・生活歴を理解し、必要とするサービスを把握するよう努めている。入居者歓迎会を催している。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問合せ時点で、なるべく本人・家族に見学して頂くようにし、体験入居も受け入れ要望・不安等を聴取し、納得を得るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、面接で本人・家族の要望を把握し、初期には一日の生活状態を観察し、必要な支援を見つけ、々の統一化を図り、共有するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりが出来る事を把握し、食事作り・清掃・植物の世話などを共に行き、本人の力を発揮できる場面作りをし、支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・誕生会など行事に参加して頂き、又、本人の要望を代弁するなどし、家族と連絡を取り合い、協力し合いながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の写真など好みの物を居室に飾ったりし、親類・友人の訪問時には、居室や居間で話をして頂いている。家族や遠方の親類へ、いつでも電話で話をして頂く。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話をされたり、一緒にテレビを観たりされている時は、お茶を出したりし、同じような興味を持たれている方には一緒に楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、家族より手紙を頂いたり、時には転所先に足を運び様子を伺ったり、情報提供を求められた際の手紙等も整備している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人記録には本人の言動をきちんと記入し、日々の生活の中で意思や要望を知るように努め、変化に気づき職員間で共有し、統一した対応をするように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面接にて本人及び家族から把握した生活歴などをアセスメントシートに記録し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にセンター方式D3を活用し、24時間の水分・食事摂取量や言動・職員の関りなどを細かく記録に残している。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望や意見は「家族ノート」に記入し、ケース会議は必要に応じて開催し、事例を職員間で共有すると共に、医師や看護師にもアドバイスを仰ぐ。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録はセンター方式D3を活用。気づいた事は「ケアプランに繋げる表」に記録。業務日誌・家族連絡ノート・夜勤⇄日勤申し送りノートなどを活用し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望に添えるよう、家族とも相談し、建物内の小規模多機能型事業所と連携を取り、催事参加交流や機械浴入浴等、柔軟な支援ができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し町内清掃・夏祭りに参加し、地域の方々にも事業所の行事(祭・クリスマス会)の参加を呼びかけ相互の交流を図り、囲碁・書道ボランティアの訪問、コーラス公演などの受け入れをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て、24時間居宅療養診療医(月2回往診)を委託し、他に訪問歯科・訪問マッサージ・針灸治療を受けられる体制を取っている。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人契約にて24時間医療連携体制を行っており、週1回の巡回訪問・必要時に訪問・24時間電話対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に提携医療機関があるが、家族や本人の意向を聞き入院先を決め、退院に向けては、医師・ケースワーカーなどと連絡を取り、早期退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化に関する指針」を説明し同意を得た上で、医師・看護師・家族を交えて話し合い、方向性を確認する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生講習(AED)の受講や緊急時対応マニュアルを目に付く所に掲示し、朝礼時などに対応の再確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、火災・地震時の避難誘導方法の再確認を行っている。毎日、ビル内各階施設の夜勤者・入居者数の確認を行っている。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、一人ひとりの人格を尊重した支援を心がけ、人前であからさまに介助をしない、言葉かけやレクリエーションへの参加呼びかけ等、無理強いの無いよう気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物は本人の要望に添うようにし、誕生会の食事メニューは本人の希望する献立を組んでいる。レクリエーション参加は本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活ペースは決まっているが、その都度、要望を伺い柔軟に対応している。起床時間・食事時間は個人の心身の状態に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて衣類を選んだり、購入時本人の希望を取り入れている。男性の髭剃りは、入浴時や自分のペースで行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき・味付け・盛り付けなど各々得意とする方と一緒にいき、後片付け・食器洗いも職員と一緒にしている。同じテーブルに職員も着き会話を楽しみながら食事を頂く。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が作成したものに基つき利用者の希望や季節感も取り入れ、健康管理に配慮し、食事量・水分摂取量は個人記録表に記録する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを自力や介助にて行い一人ひとりの口腔内の状態を把握している。週2回、義歯洗浄殺菌をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、声かけし、トイレでの自立排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し排便状態を把握し、便秘が見られる方には、繊維質の食物・乳製品などを摂取してもらうようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、その日の体調によりシャワー浴や清拭にて対応し、入浴希望があれば入浴日以外でも対応している。		

スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室清掃・布団干し・リネ交換等、こまめに行い、居室の温度・湿度・換気に配慮している。冬季は次亜塩素酸加湿器を使用し、居室には濡れタオルを下げ湿度管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を綴じ、いつでも確認できるようにし、処方が変わった時は、業務日誌や申し送りノートに記録し、職員に周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事、やりたい事、得意な事を把握し、縫い物・掃除・洗い物・洗濯物畳みなど、職員と一緒にやり、得意な事を教えて頂いたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーに職員と一緒に買い物に行ったり、近隣散歩、昼食・おやつ等の外食、車での外出などで気分転換をして頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員が管理しているが、必要に応じて、いつでも使えるよう支援している。		



スカイホーム 湘南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけられる方には、いつでもかけて頂いている。自分では無理な入居者様には、職員が中継ぎして話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は和室で、ソファ・テレビ・雑誌などを置き、民謡・童謡・クラシックなどのCDを流し、ベランダには四季折々の花々を育て、食卓テーブルにも花を飾って、季節感を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でテレビを一緒に観たり、廊下のベンチに座り話をされたり、各々の居室内で雑談をされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台・タンス・仏壇など、居宅から持ち込まれた馴染みの深い物を置き、家族の写真や思い出の品物を飾ったりし、思い出の居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの自立度により、杖・カート・車椅子を使用し、廊下など狭い場所では職員が気を配るようにし、手すりは最小限必要な所だけに設置している。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 スカイホーム 湘南

作成日 平成22年3月25日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策 ・ 防災訓練を年2回実施しているが、地域との協力体制が出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年2回、防災訓練の実施(1回は消防署員指導の下)</li> <li>・ 地域との協力体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月に消防署に依頼する。</li> <li>・ 町内会主催の防災訓練に参加する。</li> </ul>	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。